



藤田佳久教授 近影

略 歴

- 一九四〇年十一月 愛知県豊橋市生まれ
- 一九六三年三月 愛知学芸大学学芸学部
(地理学教室)卒業
- 一九六五年三月 名古屋大学大学院文学研究科
修士課程(地理学)修了
- 一九六七年三月 名古屋大学大学院文学研究科
博士課程(同)中退
- 一九六九年四月 奈良大学文学部専任講師・
次いで助教授
理学博士
- 一九七五年三月 愛知大学助教授就任
- 一九七九年四月 愛知大学文学部教授就任
- 一九八二年四月 英国・レディング大学客員教授
(一〇〇〇年三月)
- 一九九八年九月 愛知大学退職
- 二〇一一年三月

【主な著書業績】

- 『桜井木材業史』(一九七三、同協同組合)、『日本の山村』
(一九八一、地人書房)、『現代日本の森林資源問題』(沙文社)
- 『奥三河山村の形成と林野』(名著出版)、『日本・育成林業地
域形成論』(古今書院)、『吉野林業地帯』(古今書院)、『日本
山村の変容と整備論』(地人書房)、『山村政策の展開と山村

の姿容(編著、原書房)、『アトラス―日本列島の環境変化―』(共、朝倉書店)、『アジアの歴史地図』(編著、朝倉書店)、『中部圏』(編著、朝倉書店)、『生きている霞堤』(あるむ)。

「中国との出会い」、「中国を越えて」、「中国を歩く」、「中国を記録する」(以上、東亜同文書院・大調査旅行記録、第一巻)、『第四巻、大明堂』、『満州を駆ける』(同第五巻、第二出版)、『東亜同文書院・中国大調査旅行の研究』(大明堂)、『東亜同文書院生が描いた近代中国の地域像』(チカニシヤ出版)。

「自動車工場進出下の愛知県田原町における土地利用変化」(愛知大中産研)、『豊橋・浜松地域の展開と両地域の連関に関する研究―二眼レフ的地方都市圏域の構造に関する研究―』(愛知大中産研)、『岡崎に新たな中心性の構築を』(岡崎商工会議所)、『人と土地が刻んだ地域システムを追う―二川宿総合調査報告書・地理編―』(豊橋市二川本陣資料館)、『イギリスの再生と社会風土―フィールドワークでイギリス世界をみる―』(あるむ)、『東亜同文書院生が記録した近代中国』(あるむ、愛知大東亜同文書院大学記念センター)。

『奈良県史・第一巻(地理・地域史)』(名著出版)、『以下編・共著』『野迫川村史』、『三郷町史』、『当麻町史』、『香芝町史』、『吉野川分水史(奈良県)』、『大塔村史』、『河合町史』、『五條市史(新修)』、『金剛山記』、『川上村史』、『榛原町史』、『檀原市史(新修)』、『串原村史』、『足助町史』、『豊橋市史』、『豊根村史』、『木曾川流域誌』(中部地建)、『大工場のある町―自動車工場と人々のくらし―』(小峰書店)、『幸田町史』、『豊川市史』、『小坂井町史』、『神様王国―遠山郷神様王国ハンドブック』(同運委)ほか。